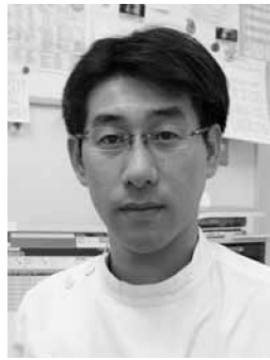


# 不活化ポリオワクチンについて



小児科部長

山田 博

山香病院だより vol.67

やアフリカなどの海外では、依然としてポリオが流行している地域があり、旅行者等を介して日本にもポリオウイルスが入ってくる可能性は大いにあります。その場合でも感染したり流行したりしないように、現在でもポリオワクチンの接種は必要なのです。

不活化ポリオワクチンは、初回3回、その後6か月以上あけて追加1回の計4回の皮下注射です。対象者は、生後3か月～90か月（7歳6か月）のお子さんです。生ポリオワクチンを既に2回接種している人は、免疫は充分ついていますので、不活化ポリオワクチンを接種する必要はありません。生ポリオワクチンを1回だけ接種したというお子さんは、不活化ポリオワクチンをあと3回接種します。標準的な初回接種年齢は、生後3か月～12か月で、できればその間に初回3回を済ませるようにならしましょう。その年齢を過ぎていても90か月（7歳6か月）までのお子さんであれば無料で接種できます。

杵築市では実際の対象者に個別に通知をするようにしていますので、その通知を待って、かかりつけ医等で接種を行ってください。

皆さん、こんにちは。

8月号、9月号の市報でもお知らせがありましたので、ご存知の人も多いと思いますが、9月1日から従来行われていた生ポリオワクチンに代わり、不活化ポリオワクチンが定期接種となり、公費で接種できるようにになりました。

生ポリオワクチンは極まれにはありますが、ワクチン接種による副反応として神経麻痺が生じる可能性があったのですが、不活化ワクチンの導入により、その副反応のリスクは大きく減ずることになりますので、より安全に接種ができるようになったと言えます。

ポリオ（急性灰白髄炎）とは、ポリオウイルスによる急性ウイルス感染のことで、主に口

から侵入し腸管で増殖し、まれに脊髄などの中枢神経に感染が広がるために手足の麻痺がでてしまう病気です。ウイルスは便から排泄され他の人にも感染します。現時点で有効な治療はなく、麻痺が生じてしまうと永続してしまいます。感染した場合でも、ほとんどの場合は症状がでない不顕性感染で済むのですが、感染者の1%に麻痺が生じると言われています。

日本では、1960年にポリオの流行が生じ、5千人以上の方が罹患し大問題になっています。その後、生ポリオワクチンが導入され、1980年の1例を最後に野生株（ワクチンが原因でないもの）の感染による患者さんは認められていません。しかしアジア